

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」

# 平成 25 年度 事業報告書

(2013年9月~2014年3月)



公立大学法人大阪市立大学 女性研究者支援室

# ご挨拶

女性研究者支援室長  
法学研究科教授 金澤真理

大阪市立大学は、平成 25 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」に選定されました。事業選定を受け、平成 24 年に設置された女性研究者支援室が新体制のもと、本格的に活動を開始しました。平成 25 年度末現在、女性研究者研究活動支援員制度(支援員派遣事業)をはじめセミナーや交流会を複数回行っております。

本事業は、単に女性教員の積極採用に取り組むのみならず、女性研究者が直面する出産・育児、介護等(以下、ライフイベント)の特有の課題を解決し、研究しやすい環境の整備を通して本学全体の研究力の向上を図るプログラムです。

今年度の一番の成果は、女性研究者研究活動支援員制度の運用を開始したことです。この制度は、ライフイベントを抱える女性研究者だけではなく、研究者を配偶者としてもつ男性研究者も対象にし、研究支援員を派遣し、研究活動の負担を減らすことを通じてワーク・ライフ・バランスをとってもらうことを目的としています。利用者からの一定の評価を得て、口コミでも研究支援員制度の利用の輪が拡がりつつあります。「つなげて、つながる創造力」\*が少しずつ具現化しているといえましょう。

平成 26 年 3 月に開催した第3回研究者交流会(グローバルなミニセミナー)の席上で、講演者の陳映芳氏(中国・上海交通大学教授・本学文学研究科修士・文学博士)から、母校である大阪市立大学における実施的な支援の取り組みがますます充実することへの期待が述べられました。本学に学んだ研究者を媒介としたグローバルなネットワークは、本支援室の機能の副次的な成果と言えるでしょう。

事業 2 年目となる平成 26 年度は、平成 25 年度に構築した研究支援者人材データベースを本格稼働させ、女性研究者研究活動支援員制度をより効果的に実施していくとともに、引き続き各種イベントを行い、事業全体を充実させる予定です。

女性研究者支援室はこの事業を通じて、女性研究者のみならず、全ての研究者、職員、学生がワーク・ライフ・バランスについての意見を交換し、その実現に近づけるよう、活動を進めて参りたいと考えております。

引き続き、ご指導とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

\* 2013 年 11 月 11 日(月)開催「女性研究者研究活動支援事業シンポジウム 2003」ポスター報告参加の際に使用した本支援室のタイトル

## 平成 25 年度事業総括

本学は、平成 25 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に選定された。このことを受け、本学では女性研究者支援に関する様々な取組、制度構築を推進し、事業終了時点(平成 27 年 3 月末)までに女性研究者比率17%を目指すこととしている。

平成 25 年度は、事業初年度として下記の取組みを行った。

- 女性研究者支援室体制の整備
- キックオフシンポジウム
- 研究者交流会
- 管理職セミナー
- ライフ・ワーク・バランス充実セミナー
- 女性研究者研究活動支援員制度
- 女性研究者ネットワークシステムの構築と運用
- 全学研究者対象「ワーク・ライフ・バランス等に関する実態調査」
- 意識啓発のための啓蒙資料の作成(広報誌等)
- ウェブサイトの開設

大阪市立大学 女性研究者支援室

## 1 事業目的と事業概要

本学の事業では、女性研究者の積極採用、上位職への積極登用に取り組み、女性研究者が最大限にその個性と能力を発揮できる環境を整備することで、領域を超えた女性研究者を核とする多層的で多様な研究ネットワークを新たに形成することを目指す。また、女性ならではのコミュニケーション能力を活かして、現代の問題に対応する知見を生み、次世代に伝える大学のミッションに女性研究者が一層効果的に関わる仕組みを創出する。さらに本学と統合する場合も踏まえ、大阪府立大学との連携を強化し、円滑に推進していく。

本事業は、下記5つの柱からなっている。

- ①女性教員の積極採用および積極昇任
- ②教育・研究環境整備
- ③出産・育児環境整備
- ④学内の意識改革
- ⑤次世代の研究者育成、地域への啓蒙活動

## 2 達成目標（平成 25 年度～平成 27 年度）

本学では、具体的な数値目標として、下記の3つを掲げている。

### （1）女性研究者比率の3割増

平成 24 年度 13% (94 名)

- 平成 25 年度 14.6% (105 名) 実績 ≧ 当初目標 14.6%
- 平成 27 年度 17% (122 名)

### （2）女性研究者採用比率の5割増

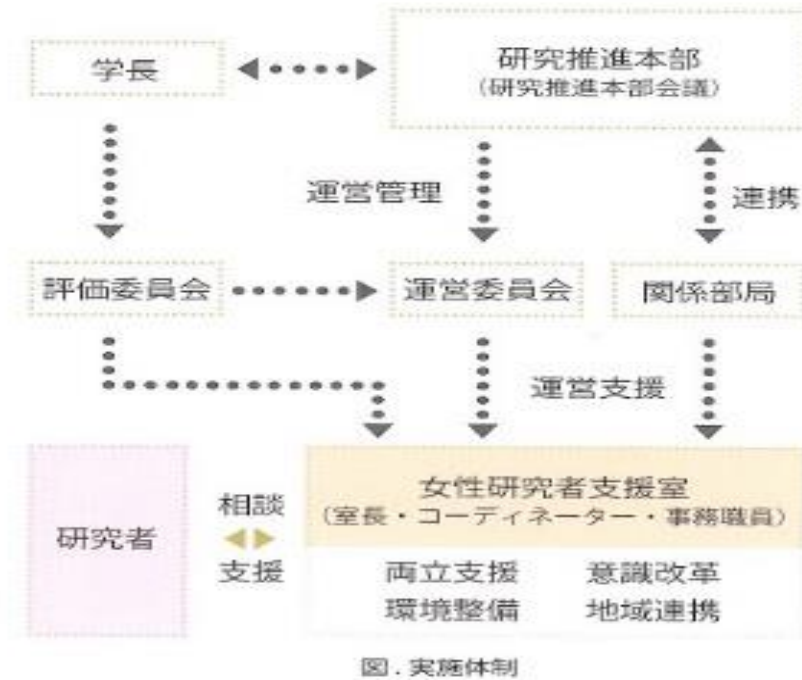
平成 23 年度 12% (12 名)

- 平成 25 年度～平成27年度 (18 名)

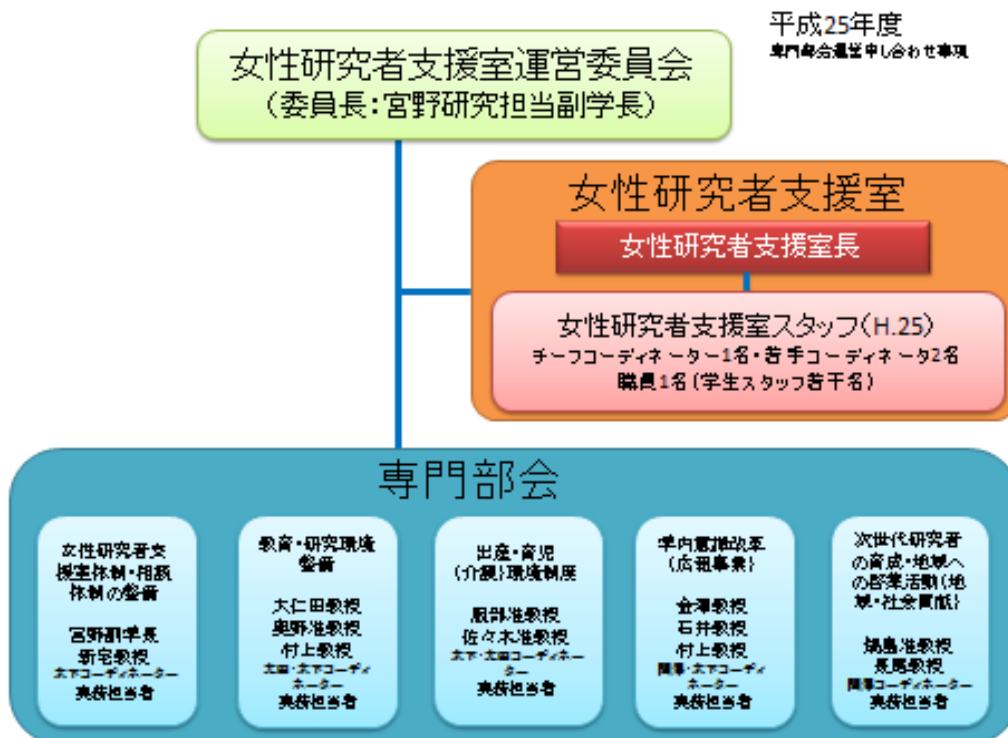
### （3）女性研究者の昇任キャリアアップ支援（教授・准教授比率3割増）

- ・教授 10% (32 名) → 平成 25 年度～平成 27 年度 (35 名)
- ・准教授 13% (30 名) → 平成 25 年度～平成 27 年度 (33 名)

### 3 本学女性研究者支援の推進体制（平成 25 年度）



#### 【女性研究者支援室と各専門部会】



#### 4 ロードマップ（平成 25 年度～平成 27 年度）



#### 5 平成 25 年度活動スケジュール

日付	活動内容	種別
2013年9月3日	女性研究者研究活動支援事業(一般型)採択	その他
2013年10月4日	第2回運営委員会	会議
2013年10月30日	メール審議	会議
2013年11月26日	第3回運営委員会	会議
2013年12月10日	メール審議	会議
2013年12月11日	キックオフシンポジウム	イベント

2013年12月20日	第1回研究者交流会	イベント
2013年1月15日	女性研究者研究活動支援員制度・支援員配置開始	制度構築
2014年1月22日	第4回運営委員会	会議
2014年1月29日	第2回研究者交流会	イベント
2014年2月20日	ワーク・ライフ・バランスセミナー	イベント
2014年2月21日	第5回運営委員会	会議
2014年2月24日	全学研究者対象「ワーク・ライフ・バランス等に関する実態調査」	アンケート調査
2014年3月3日	メール審議	会議
2014年3月13日	JST 訪問 メール審議	会議
2014年3月14日	女性研究者ネットワークシステム運用開始	システム構築
2014年3月17日	管理職セミナー	イベント
2014年3月18日	杉の子保育園視察	視察
2014年3月19日	第6回運営委員会 第3回研究者交流会	会議 視察

# 1 女性研究者支援体制・相談体制の整備

## (1) 女性研究者の積極採用と上位職登用への取り組み

本学は、女性研究者支援室を設置し、学長・理事長の強いリーダーシップのもとで男女共同参画の理念、国際化の理念に基づき、性別国籍にかかわらず優秀な人材採用、及び上位職への積極昇任のための環境整備の促進を支援する。

女性研究者支援の取り組みを総合的に評価するための外部評価委員会を設置する。外部評価委員会での議論や提言は、今後の活動へと活かしていく。外部評価委員会運営要領を定め、平成 26 年度以降、本格的に活動を開始する。

(要領については「Ⅲ. 資料」参照)

## (2) 女性研究者の実態調査

女性研究者支援室では、本学に所属する女性研究者を対象として、その実態とニーズを把握するため、計2回のアンケート調査を行った。

### ◆ 第一回: アンケート調査(平成 25 年 2 月)

対象: 本学全女性教員・研究者(任期なし)

#### 【強い要望】

- ・職場環境整備について…研究支援および育児・介護の際の代替教員の配置
- ・育児支援について…学内保育所の充実、病児・病後児保育の充実
- ・仕事と個人生活の両立…上司・同僚の理解が必要
- ・女性教員比率が低い理由…男性の意識に問題

(アンケート内容については「Ⅲ. 資料」参照)

### ◆ 第二回: アンケート調査「研究者のワーク・ライフ・バランス等に関する実態調査」(平成 26 年 2 月)

対象: 本学全研究者

結果については、現在集計中につき、平成 26 年度事業報告書に掲載する。

(アンケート内容については「Ⅲ. 資料」参照)

## (3) 表彰制度

本事業では平成 26 年度より、研究業績、およびそのアウトリーチにおいて、顕著な成果をあげた女性研究者を表彰する。この制度の目的は、他の女性研究者の意欲高揚と資質向上、及び本学における女性研究者のキャリアアップ支援にもつながるものである。



## 2 教育・研究環境整備

### (1) 研究支援員派遣制度の創設

多くの女性研究者は、数多くのライフイベントに直面し、研究活動を断念せざるを得ない、あるいは継続が困難な状況に陥っている。本学では、そのような女性研究者が研究活動を続けられるように、支援員を派遣する制度「女性研究者研究支援員制度」を平成 26 年に創設した。この制度は支援員においても、優れた研究者の下で経験を積むことによるキャリアアップの機会としても位置付けられる。そのため、本事業目的の「5. 次世代研究者の育成」にも貢献するものである。

◆支援対象者: ライフイベントを抱えた本学女性研究者

(女性研究者をパートナーとする男性研究者)

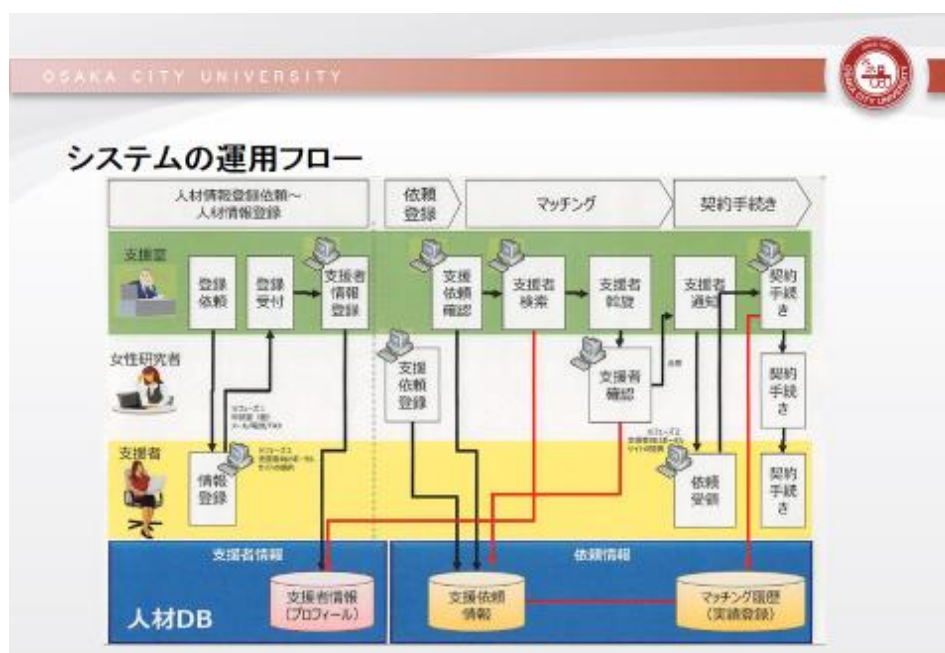
◆支援員対象者: 若手研究者、学生(他大学在籍者含む)、大阪市大卒業者、一般市民

支援員制度の拡充を進めるとともに、女性研究者支援の周知をはかるため、リーフレットを作成し、学内広報に努めている。特に、多くの女性研究者にとって、両親等の介護がライフイベントとして控えていることが想定されるため、介護事由での利用が可能であることを積極的に周知する。

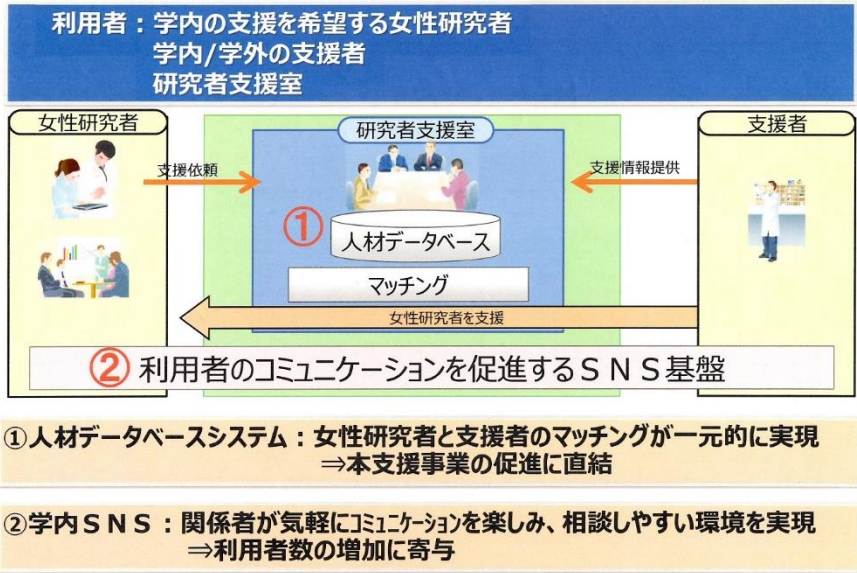
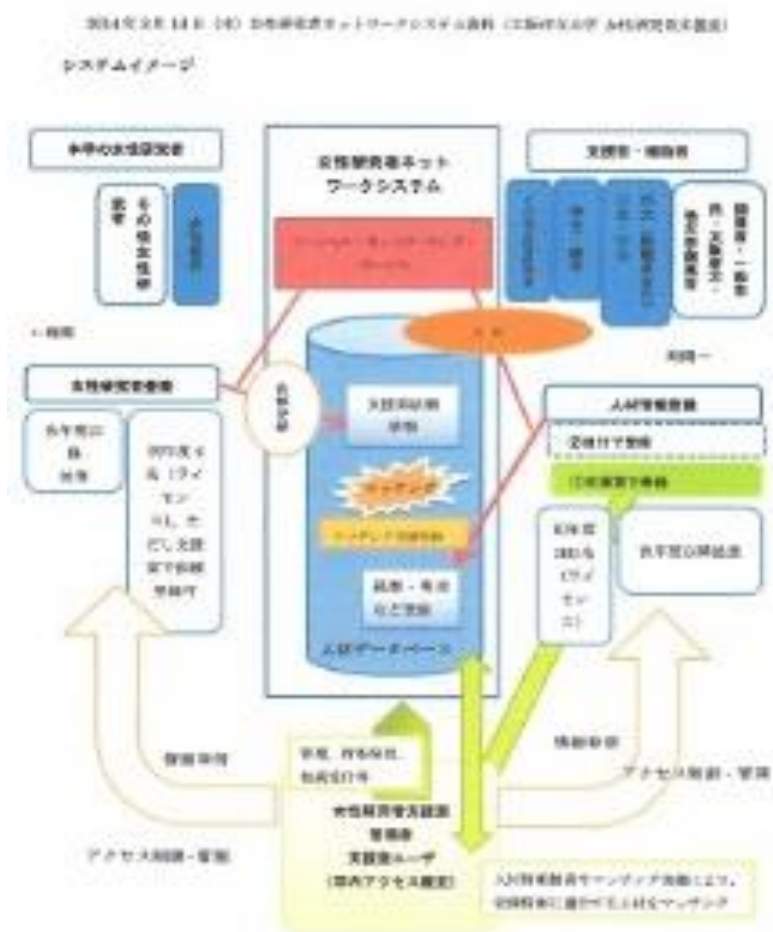
(リーフレット及び関連資料は「Ⅲ. 資料」参照)

### (2) 人材データベースシステムの創設

上記(1)をより円滑にすすめるため、女性研究者と支援員のデータベースシステムを創設した。平成 26 年度から始動する。本システムの意義は第一に、女性研究者のネットワーク形成の場となること。第二に、女性研究者と支援員のマッチングが迅速に行えることである。受付や採用に関しては女性研究者支援室が媒介し、個人間の業務トラブルについては最小限に留めることができると考えている。



また開発した人材データベースは、支援員の配置に有効に生かすとともに、女性研究者同士の情報共有にも活用し、研究者の支援を行っていく。この人材データベースは、女性研究者支援の業務の多様性を考えて本学の学生やポスドクだけでなく、研究経験のある卒業生が広く登録できるものとし、大阪府立大学との連携により拡大した女性研究者支援体制も視野に入れることができるように検討をすすめていく。26年度の課題は支援員の確保である。上記(1)と同様、学内(卒業生や学外に向けても)広報を積極的に行い、支援者登録を広く募る。



研究支援員制度利用実績報告(一部抜粋)			
被支援者 (教員)	A	B	C
研究支援員の業務内容	実験補助、データ整理、資料作成、その他(実験機器の設置、整備、修理立ち合い、研究室の整理整頓、備品や試薬の管理)	調査準備、調査(研究内容の説明)、ガイドラインのナレーション原稿作成・編集、データ整理、データ入力、論文校閲など	資料調査及びデータ分析
本制度利用の効果	2月、3月は妊娠による体調不良が続き、体力でこなしていた部分をほぼ全て支援して頂いた。3月には学会発表8件、論文の再投稿1件を達成することができた。更に、研究室の整理整頓とそれに伴う備品管理、納品管理が可能になったため、ちょうどこの2ヶ月間に支援を得られた効果は大きかった。	2ヶ月間の利用であったが、1件の調査を終了した。現在調査中の研究についても、調査票の確認から入力の流れがスムーズである。これまでの研究成果を論文にまとめ、投稿することができた。	利用1ヶ月での効果について、成果として示すことは困難だが、研究について少し考えて取り組む時間が取れた。
研究支援員制度に関する意見や要望、改善点など	学生を雇用できる制度は、教員のやるべき仕事である事を明確にしつつ、仕事の内容を理解することにより、研究室の運営に積極的に関わってもらうきっかけになる為、研究・教育両面で効果が高いと思います。研究員あるいは庶務担当(会計処理、書類作成、書類フォーマット調整など)を雇用するという想定も強化して頂ければ、より「研究」支援になると思います。		報告書など、事前にフォーマットが頂ければよかったです。支援員制度ができて大変うれしく思っております。
その他特記事項	「妊娠初期の体調不良」の時期に支援が得られると大変ありがたいものだと実感しました。私はたまたま息子が学齢前で今回支援を受けていましたが、出産前などの体調不良時にも支援が受けられればいいなと思いました。		

研究支援員活動報告(一部抜粋)					
支援員	A	B	C	D	E
従事内容	先生の研究時間を確保するために文献整理やその入力	データ整理、入力、ナレーション原稿作成、質問紙作成/送付、研究内容について研究協力者への説明実施	実験結果の整理、遺伝子改変植物(実験サンプル)の受け入れ書類の作成、学会発表に向けた準備、レポート整理等の授業補助	SCP精製全般を担当し、そのサンプル管理とDATA整理、実験室の掃除及び試薬、機具の等の整理、実験の前準備とあとかたづけ、阪大、JAXA等、学外共同研究者への対応	緑藻からの色素タンパク質SCPの精製とFCPの精製(準備、機器メンテナンス、データまとめ含む)
研究支援員に従事しての感想・自身の研究等への効果等	私自身の研究分野とは異なる分野の先生の文献整理等を行うことにより、普段はあまり目にするのない法律分野にも目を向けるきっかけとなり、私自身、刺激を受けた。	先生の研究を手伝わせてもらう中で、研究の手法や手順など学ばせてもらっております。また、専門的な知識を得る機会にもなっています。	支援研究者の仕事の一部体験し、その職務に対する理解を深めることができた。サンプル受入れ方法等の研究プロジェクト運営に必要な諸手続きについても知ることができ、自身の研究に生かせる経験となった。	学生ではありませんが、時間がたりない部分を補い、心のゆとりを持って時間外労働をさせてもらえました。又、実験室の片づけ等もできたので、安全対策もできました。	共同研究者へ提供サンプルに関するデータをわかりやすくまとめることができた。
研究支援員制度に関する意見や要望等	支援員として提出しなければならぬ資料などの連絡をもう少し時間的余裕をもって示していただきたい。	提出書類の書き方がもう少し簡便であるとありがたいです。	女性研究者を指す学生にとっては、出産・子育て等のライフイベントと仕事の両立は、進路決定における不安要素である。女性研究者支援制度の取り組みにより、女性研究者の増加が期待できると感じた。	大変感謝しております。	支援員としても支援される側の立場を考えても、便利な制度だと思います。今後も継続されることを願います。

### 3 出産・育児（介護）環境制度

#### (1) 関連施設との連携強化、保育サービスの充実

本学には、「杉の子保育園」「病児保育室たんぼぼ(附属病院)」「女性サポート室(人工光合成研究センター)」など、子育てに関連して学内研究者が利用できる施設がある。平成 25 年度はそれら学内資本の広報をつとめ、保育サービスの充実を支援してきた。平成 26 年度は研究支援制度の利用率向上のため、地域の病児・病後児保育室の案内、保育サービス料補助券発行など柔軟な保育サービスの充実度を高め、利用者ガイドブックを作成する。また、土日や入試時期における一時保育サービスの制度化の準備を行う。

#### (2) くるみん認証取得に向けた活動

「子育てサポート企業」として、厚生労働省による「子育てサポート企業」認定(くるみんマークの取得)に向け、次世代育成支援対策推進法に基づいた行動計画の策定と、データ収集を解析し、平成 26 年度中の認定を目指している。

## 4 学内意識改革（広報事業）

シンポジウム、管理職向けの意識啓発を主眼にセミナー等を多く開催した。都市で働く女性研究者支援の在り方、本学各部局の取り組みや特色の紹介、先行する国内外の事例紹介などをテーマに設定し、活発な議論を行った。事業選定初年度であったため、支援室の存在の周知、ニーズの把握や学内の研究者の横のつながりを促すことを目的としたイベントを企画・実施した。

2013年12月11日	キックオフシンポジウム
2013年12月20日	第1回研究者交流会
2014年1月29日	第2回研究者交流会
2014年2月20日	ワーク・ライフ・イベントセミナー
2014年3月17日	管理職セミナー
2014年3月19日	第3回研究者交流会

## 大阪市立大学女性研究者支援室キックオフシンポジウム

- 日 時 : 2013年12月11日(水) 14:00 ~17:00
- 場 所 : 大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター10階
- 参 加 者 : 参加者107名(内アンケート回答者34名:教員21名、学生・ポストク6名、職員5名、その他2名)
- プログラム
- 14:00~14:30 開会挨拶
- 14:35~15:05 基調講演  
科学技術振興機構 山村康子 プロジェクト主管  
「女性研究者支援・育成の現状と今後」
- 15:05~15:35 特別講演  
大阪府立大学女性研究者支援センター長 田間泰子 教授  
「女性が生き生きと輝ける社会をめざして——大阪府立大学の取り組みから両大学連携へ」
- 15:35~16:00 本学事業説明  
本学理学研究科・数学研究所長 大仁田義裕 教授
- 16:00~16:15 休憩
- 16:15~16:55 パネルディスカッション  
「男女共同参画への道——女性研究者支援は大学をどう変えるのか？」  
パネリスト
- 16:55~17:00 閉会挨拶

### 【 概 要 】

本学は、平成25年9月に科学技術人材育成費補助事業「助成研究活動支援事業(一般型)」に採択され、女性研究者支援を本格的に開始するようになった。本事業について、大学教職員や博士研究員、学生はもとより広く理解してもらうため、キックオフシンポジウムを開催するものである。

参加者からは、女性研究者支援に関する現状や、本学と関係の深い府立大学における取り組み(先行事例)に対して、関心が寄せられた。一方で、本学における具体的な取り組みやその周知について改善が必要であるという意見が見られた。以後の活動に向けて参考となる重要な意見や指摘を得る貴重な機会となった。

## 第1回研究者交流会

### 「女性研究者への道を知りワークライフバランスの可能性を探る」

日 時 : 2013年12月20日(金) 16:15~17:50  
場 所 : 大阪市立大学杉本キャンパス 1号館 3F 130 教室  
参 加 者 : 参加者21名:教員7名、学生・ポスドク7名、職員7名

#### プログラム

16:15~16:20 支援室挨拶  
16:20~16:40 山肩洋子准教授 博士(情報学)京都大学大学院情報学研究科  
「キャリアデザインとワークライフバランスについて  
——いち理系女性研究者として」  
16:40~17:10 質疑応答  
(休憩)  
17:15~17:50 情報・意見交換会

#### 【概要】

ライフイベントを抱える研究者にとって、社会的な支援を得られるかどうかは極めて重要な問題である。本学においても、女性研究者の研究活動を支援するため、「研究支援員配置制度」の構築の準備作業を行っている。本交流会は、女性研究者支援の事業に取り組んでこられた京都大学の山肩洋子教授をお招きし、支援のノウハウ、ロールモデルとしてご自身のキャリアデザインやワーク・ライフ・バランスについて講演、交流会を行ったものである。

参加者は、講演者の体験に基づく話に強く興味関心を示していた。また、その後の交流会についても時間が足りなくなるほどに盛況であり、成功したと言える。参加者からのアンケートにも同様の交流会の積極的な開催を希望する意見があることから、交流会のような活動のニーズが高いことが分かった。



**第2回研究者交流会**  
**「男性研究者の子育て術」**

日 時 : 2014年1月29日(水) 16:15~17:50

場 所 : 大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター10F 研究者交流室

参 加 者 : 参加者名 7:教員 3名、学生・ポスドク 4名

プログラム

16:15~16:20 支援室挨拶

16:20~17:00 谷塚光典准教授 信州大学 教育学部附属教育実践総合センター

「研究者夫婦のキャリアデザインと子育て

——育休を取得した男性研究者からみて」

( 休 憩 )

17:10~17:50 交流会

**【 概 要 】**

育児は女性だけで行うものではなく、男性も協力し行うものである。必然的に、男性も育児に積極的に参加すること、ひいては育児休暇を取得し、一定期間育児に専念することが必要となるケースも増えると考えられる。本交流会では、男性の育児参加、育休取得という点に着目し、信州大学の谷塚光典准教授をお招きして、経験に基づくご講演ならびに交流会を行うものである。

参加者は、講演者の経験に驚くと同時に、深く感銘を受けていたようである。特に、講師からクイズ形式で提示されたように女性しかできないことは出産と授乳であり、それ以外の保育には男性でも関われることを再認識したり、ネットなどを活用した子育てには、子育てそれ自体の発見を経験者と共有できる貴重な時間となり、「交流会」として有効に機能した。アンケート結果からも、一つの研究者夫婦の形として参考になったという意見も見られ、有意義な交流会になった。交流会の開催時間や時期については、引き続き試行錯誤しながら最適を見つける必要があるが、同様の交流会は今後も続ける必要があると考えられる。



ワーク・ライフ・バランス充実セミナー  
「仕事と子育てを両立して、長く働き続けるには」

日 時 : 2014年2月20日(木) 12:00~13:00  
場 所 : 大阪市立大学杉本キャンパス 高原記念館 学友ホール  
参 加 者 : 参加者10名:教員4名、学生・ポスドク6名  
プログラム

12:00~12:45 上田理恵子 株式会社マザーネット 代表取締役社長  
「働くみんなの育児と社会復帰について」  
12:45~13:00 質疑応答

**【概要】**

育児はある一時期で終わるものではなく、非常に長い期間行っていくものである。仕事と育児、またその支援といかに長く、うまく付き合っていくのが重要となっている。本セミナーは、そのような仕事、育児およびそれを支えるサポートの継続性という点に着目し、情報交換や交流を行うものである。そのために、株式会社マザーネット(育児支援サービスを展開)の代表取締役社長である上田理恵子様にお越しいただき、ご講演と交流を行った。

## 管理職セミナー

- 日 時 : 2014年2月17日(月) 10:00 ~11:45
- 場 所 : 大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター10階
- 参加者 : 参加者26名:教員20名、職員3名、その他3名
- プログラム
- 10:00~10:05 開会挨拶  
大阪市立大学 西澤 良記 学長
- 10:05~10:25 講演  
文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 人材政策推進室  
室長補佐 沼田 勉氏  
「女性研究者研究活動支援事業の評価ポイント等について」
- 10:25~10:35 質疑応答
- 10:35~10:45 休憩
- 10:45~11:30 「今年度事業説明」  
女性研究者研究支援室 コーディネーター 木下裕美子(特任助教)  
「支援員派遣制度についての体験談等」  
大阪市立大学看護学研究科 准教授 佐々木八千代先生  
「人材DB デモ」  
女性研究者支援室学生スタッフ 浅野正貴  
「支援員確保について調査とご依頼」  
女性研究者研究支援室 室長 法学研究科教授 金澤真理先生
- 11:30~11:40 質疑応答
- 11:40~11:45 閉会挨拶  
大阪市立大学 宮野副学長

### 【 概 要 】

本事業では、女性研究者の登用や採用に関して目標値を設け、達成のために様々な活動を行っている。目標達成のためには、全学をあげてより一層の取り組みが必要である。そのためには、管理職教職員の協力が欠かせない。前年度に行われた支援室開設セミナー(職員中心の参加)に引き続き、人事にかかわる管理職教員の方を対象に、本セミナーを開催した。

参加者からは、本事業に対する意見が数多く寄せられた。特に、本事業の中核である人材データベースに関しては非常に好意的な意見をいただいた。一方で、広報や人材データベースを取り巻く制度(支援員制度)に関して、より一層の改善が求められた。

**第3回 研究者交流会**  
「グローバルなミニセミナー」

日時 : 2014年3月19日(水) 13:00 ~18:00  
場所 : 大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター10階  
参加者 : 参加者41名:教員23名、学生・ポスドク10名、職員6名、その他2名

プログラム

- 13:00~13:05 開会挨拶
- 13:05~13:50 講演  
宇都宮共和大学 専任講師 松田さおり先生  
「研究する母親のワーク・ライフ・バランス:女性労働者の就業継続要員を題材に」
- 13:50~14:35 講演  
新渡戸文化短期大学 准教授 尾崎博美先生  
「大学研究・教育を支える学内保育施設の意義:国際比較研究から」
- 14:35~14:45 休憩
- 14:45~16:00 講演  
カナダ・マクマスター大学 准教授 原田芽ぐみ先生  
上海大学 講師 趙艶利先生  
北京航空航天大学 副教授 薛玉梅先生  
上海交通大学 教授 陳映芳先生  
「女性研究者が研究を続けること」
- 16:00~17:00 講演  
Ecole Santé Social Sud-Est 国際研究科長 Martin Claire 先生  
“*Women and Research in France in progress but could do better!*”
- 17:00~17:10 休憩
- 17:10~18:00 交流会(質疑応答)と閉会挨拶

**【概要】**

日本の女性研究者比率は低いと言われている。そこで諸外国の研究者にお越しいただき、ご自身の体験や各国での取り組み状況などをお話しいただいた。

第一部では、女性労働者の就業継続の問題を通じて、女性研究者特有の困難の原因とその乗り越え方をご報告いただき、情報共有および人間関係ネットワーク形成の重要性が確認された(松田)。また学内保育施設の充実が、女性研究者の研究生活のみならず、大学教育そのものの下支えとなっている実態が国内外の事例から示された(尾崎)。第二部ではカナダ・アメリカ・中国・フランスにおける取り組みについて、それぞれのご経験と各国の制度について報告がなされた(原田、趙、薛、陳、Claire)。例えばカナダにおけるグラントの活用のしやすさと職員の理解、また女性の活躍がみ

られる中国とフランスでは支援制度に対する期待が対照的であった。中国では日本よりも女性研究者支援の意識が薄く、制度化が強く待たれている一方で、フランスでは家族や労働形態をめぐる文化及び社会背景が異なるために、女性研究者に特化した支援制度が見当たらないことが報告された。多国間比較を通じて、日本における女性研究者支援の特質と強み、課題について改めて把握する貴重な機会となった。参加者の満足度も高く、講演会や交流の時間をより長くしてほしいとの声も聞かれた。

## 5 次世代の研究者育成・啓蒙活動

女性研究者交流会を実施し、ロールモデルの提供や情報共有を行い、女性研究者の裾野拡大の取り組みを行ってきた。また、定期的に個別にインタビューをとり、大学には生き活きと研究する男性・女性の研究者がいることを、広く地域に情報発信していく。インタビューは近く女性研究者支援室のホームページに掲載予定である。



大阪市立大学 女性研究者支援室  
研究者交流会

研究と家庭の両立について考え、ぼやき、つぶやき、そこから「つながり」を育ててみませんか？  
女性研究者支援室では、研究者交流会を開催しています。

女性研究者支援室  
Mail: [ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp](mailto:ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp) Tel: 06-6605-3660



大阪市立大学  
女性研究者<sup>\*</sup>研究活動支援員制度

支援員を活用してみませんか？  
支援員としてスキルを活用してみませんか？

ライフイベント(出産・育児・介護等)を抱えている研究者の皆様の研究時間を確保するため、研究支援員を派遣します！  
※女性研究者を配偶者とする男性研究者も支援の対象です。

女性研究者支援室  
Mail: [ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp](mailto:ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp) Tel: 06-6605-3660



大阪市立大学 女性研究者支援室  
女性研究者ネットワーク

二ーズから支援の輪を広げませんか？

女性研究者ネットワークへの登録はお済みでしょうか？  
ゆる〜くつながって、進みませんか？

女性研究者支援室  
Mail: [ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp](mailto:ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp) Tel: 06-6605-3660



子どもが生まれるとわかったら！  
出産・子育てのための  
ガイドブックを活用してください。  
全学ポータルをクリック！女性研究者支援室でも配布しております。

詳しいお問い合わせ先

杉本キャンパスのママとパパ 阿倍野キャンパスのママとパパ

杉本キャンパス職員課 阿倍野キャンパス庶務課  
Tel: 06-6605-2021 Tel: 06-6645-2721

ケース・パイ・ケースで丁寧なアドバイスを受けられると好評です！





# 女性研究者支援室

女性研究者研究活動支援員制度のご案内

無限大の創造力

## ご存知ですか？ 女性研究者支援室

日本における女性研究者の割合は他の先進韓国と比べて依然低い状況にあります。現存、こうした状況の改善とともに、多様な発想を生かして研究を活性化するため、日本国内のさまざまな大学・研究機関が女性研究者を支援する取り組みを行なっています。多くの大学で実施されているのが、ライブイベント中の研究者の研究時間確保を目的とした研究支援員の配置です。

大阪市立大学女性研究者支援室は、平成24年に研究推進本部内に設置されました。平成25年10月に文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」に選定されたことをきっかけとして、本大学でも「つなげて、つなげる創造力」をモットーに、女性研究者研究活動支援員制度を設け、ライブイベントを抱えた女性研究者（またはライブイベント中の女性研究者をパートナーとする男性研究者）の研究活動支援や、女性研究者を中心としたネットワーク形成に努めております。

公立大学法人大阪市立大学 女性研究者支援室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

Tel 06-6605-3660

E-Mail ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp

Website <http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/research/wrs>

つなげて、  
つながる

## 女性研究者ネットワークシステム

・女性研究者研究活動支援員制度の支援依頼/  
支援員登録をオンラインでできます！

・SNS機能もあります！

／実証室のイベントなど  
情報登録します

## シンポジウム・研究者交流会

研究者を招いての研究会、シンポジウム、  
管理職セミナーなどイベントひらけます。

・SNS機能もあります！

／実証室のイベントなど  
情報登録します

詳しい情報はウェブサイト (<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/research/wrs>) でご覧頂けます。

## 支援を受けるには？ 支援員になるには？

女性研究者 支援員 女性研究者支援室

利用申請 登録 募集 受付

情報提供 調整・マッチング

面談 採用通知

受け入れ・指示・監督 支援員としての活動

報告書

論文 できたよ スキルUP できたよ

給与

Accepted!

詳しくは  
女性研究者支援室のサイト！  
<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/research/wrs>

大阪市立大学女性研究者支援室は  
研究したい女性を応援します！

## 女性研究者研究活動支援員制度って？

女性研究者研究活動支援員制度は、ライブイベント（出席・育児・介護等）を抱えている研究者の研究活動をサポートするために、実験補助、データ整理、資料作成、文献調査ほか、各種の補助を行なう研究支援員を配置する制度です。支援員は学内の大学院生や卒業生、一般市民等から広く募ります。女性研究者研究活動支援員制度は、女性研究者だけではなく支援員にとっても「スキルを活用し、ステップアップできる」ほか、研究者志望の人にとっては「身近に研究者のロールモデルがある」、卒業生にとっては「大学に戻る足がかりになる」などの二次的なメリットがあります。

大阪市立大学女性研究者支援室は、子育てや介護があっても研究時間を確保したい、WLB（ワーク・ライフ・バランス）を大切にしたい研究者の方々、あるいは研究支援活動に関心がある学内外の方々のご登録・ご参加をお待ちしております。

大阪市大卒業生 他大学在籍者 一般市民

登録 登録

女性研究者支援室

サポート サポート

研究時間... 論文...

WLB大いにしたい！

女性研究者 (女性研究者を配偶者に持つ男性研究者)

## 1. 平成 25 年度 女性研究者支援運営委員会 委員一覧

西澤良記	学長 女性研究者研究活動事業総括
宮野道雄	副学長 女性研究者支援室運営委員長
金澤真理	法学研究科教授 女性研究者支援室長
石井真一	経営学研究科教授 女性研究者支援室運営委員
長尾謙吉	経済学研究科教授 女性研究者支援室運営委員会委員
奥野久美子	文学研究科准教授 女性研究者支援室運営委員
大仁田義裕	理学研究科教授 女性研究者支援室運営委員
鍋島美奈子	工学研究科准教授 女性研究者支援室運営委員
新宅治夫	医学研究科教授 女性研究者支援室運営委員
佐々木八千代	看護学研究科准教授 女性研究者支援室運営委員
服部良子	生活科学研究科准教授 女性研究者支援室運営委員
村上晴美	創造都市研究科教授 女性研究者支援室運営委員

## 2. 平成 25 年度 女性研究者支援室 室員一覧

木下裕美子	特任助教 チーフコーディネーター
太田麻希子	博士（社会科学） コーディネーター
関澤彩真	博士（理学） コーディネーター
三好徳子	事務員
澤田彩	経営学研究科後期博士課程 学生スタッフ
高木修一	経営学研究科後期博士課程 学生スタッフ
西野雄一郎	工学研究科後期博士課程 学生スタッフ
浅野正貴	理学研究科前期博士課程 学生スタッフ
中田智大	商学部 学生スタッフ